

## 武蔵野市地域防災計画（令和4年度修正）の進捗報告について

## 1 武蔵野市地域防災計画の推進について

武蔵野市地域防災計画の着実な推進を目指し、本部長を市長、副本部長を副市長・教育長、委員を各所管部長とした武蔵野市地域防災計画推進本部において、各部での施策の目標設定及び前年度の進捗管理を行っている。令和5年度からは、約7年ぶりの修正となった武蔵野市地域防災計画（令和4年度修正）を踏まえ、当該計画に記載されている事業を推進している。

## 2 令和5年度の主な取組について

## (1) 学校避難所井戸における非常用浄水器の設置

令和5年6月に防災課管轄の学校避難所井戸（単独井戸）11か所について、水質基準項目（51項目）とともに水質管理目標設定項目（PFOS・PFOA）の検査を実施した。水質基準項目（51項目）については、4か所で不適合、水質管理目標設定項目（PFOS・PFOA）については、7か所で暫定目標値を上回った。

既に新聞・報道等で公表されているが、市立小中学校18か所にある災害時用井戸（学校避難所井戸）に、水道法に定める水質基準（51項目）への適合や有機フッ素化合物（PFOS・PFOA）の除去が可能となり、安全・安心な水を避難者へ提供することができる非常用浄水器を設置する。これにより、現在想定している滅菌器を使用する方法と比べ、初動要員の作業負担軽減や安全性の向上も図られることになる。

非常用浄水器の購入については、9月の市議会で承認され、12月に契約し、年度内の設置を予定している。今後は令和6年2月に予定している自主防災組織情報交換会で周知するほか、実際に機器を使用する市初動要員に対し、実機を使用した訓練等を実施し、実行力のある体制を構築していく。

設置する浄水器の仕様は以下のとおり。

**【非常用浄水器仕様】**

品番：コックン飲めるゾウBIG1-R0

対応規模：大規模（1,000人程度）

浄水能力：1時間あたり350リットル

動力：100ボルト

サイズ：幅560mm×奥行760mm×高さ1,420mm

重量：70キログラム

保管場所：各学校の防災倉庫（アルストッカー）

特長：・吸水管を貯水タンクに投入後、電源スイッチを押すだけで浄水が開始できる

- ・4輪タイヤ付で自在に動かすことができる
- ・簡単操作ですぐに浄水が可能
- ・有機フッ素化合物（PFOS・PFOA）の除去が可能



**(2) 市民啓発の体系化（市民防災協会と市の役割明確化）**

地域防災計画の柱である「共助」の推進に向け、防災推進員の専門的知識を高め、地域における共助のリーダーへの育成や、避難所運営組織への積極的な関与を促すなど、防災推進員の活動のあり方を中心とした「武蔵野市民防災協会あり方検討会」を協会内で全4回開催した。令和6年10月の防災推進員改選に向けて、活動内容、期待される役割を決定し、「防災推進員マニュアル」の修正などを推進していく。

**(3) 災害時地域支え合いステーションの開設マニュアル作成**

コミュニティセンターは、災害時には、地域特性に配慮した共助の拠点である「災害時地域支え合いステーション」として位置付けられており、平成27年3月には武蔵野市コミュニティ研究連絡会（以下「研連」という。）がマニュアルとして「災害時地域支え合いステーション運営の手引き」を作成した。しかし、各コミュニティセンターは規模や立地によって個別の課題を有しているため、より具体的・実践的なマニュアルに改訂すべく、研連に災害時地域支え合いステーション検討部会を設け、令和6年度の完成に向けて協議、検討を行っている。